

表22 地域別（出生地別）出生児報告数

出生地	出生数	児のHIV陽性	児のHIV陰性	未確定or不明
北海道	1	1	0	0
東北地方	3	0	3	0
茨城県	2	1	1	0
千葉県	11	6	5	0
東京都	11	3	7	1
神奈川県	6	0	4	2
他の関東地方	12	0	9	3
北陸地方	3	1	1	1
愛知県	11	1	10	0
他の中部地方	12	0	12	0
京都府	2	0	1	1
大阪府	5	1	4	0
他の近畿地方	2	2	0	0
中国地方	0	0	0	0
四国地方	0	0	0	0
九州沖縄地方	3	2	1	0
外国	7	1	6	0
不明	2	1	1	0
合計	93	20	65	8

表23 HIV感染女性の出産時年齢

出生年	出生数	～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳～	不明
1987年	1					1		
1988年	0							
1989年	3		2		1			
1990年	1		1					
1991年	2					1		1
1992年	4			1	1			2
1993年	6		3	2	1			
1994年	10		1	3	3	2		1
1995年	9		4	1	1	1	1	1
1996年	13	1	2	4	3	1		2
1997年	14		4	6	4			
1998年	15		1	8	4	2		
1999年	15		2	8	3	2		
計	93	1	20	33	21	10	1	7

4. HIV 感染女性の国籍およびパートナーの国籍

出産した HIV-1 感染女性の国籍は日本および

タイが共に 33 名 (71%) と多数を占めていた (表 24)。これを年次別に見ると、1997 年以降その他の国々が増加しており 3 年間で 29 名 (11 国) と多

表24 HIV 感染女性の国籍と出生児感染の有無

地域	国籍	女性数	児のHIV陽性	児のHIV陰性	未確定or不明
東アジア	日本	33	10	21	2
東南アジア	タイ	33	8	22	3
	フィリピン	3	0	2	1
	ベトナム	1	0	1	0
	ミャンマー	2	1	1	0
アフリカ	ケニア	4	1	3	0
	タンザニア	3	0	3	0
	エチオピア	2	0	2	0
	ザンビア	1	0	1	0
	ブルンディ	1	0	0	1
南米	ブラジル	7	0	7	0
	ボリビア	2	0	1	1
	ペルー	1	0	1	0
合計		93	20	65	8

表25 母親の国籍の年次変化

出生年	出生数	母親の国籍		
		日本	タイ	その他の国
1987	1 (1)	1 (1)		
1988	0			
1989	3	2		1
1990	1	1		
1991	2 (2)	1 (1)	1 (1)	
1992	4 (2)	2 (2)	2	
1993	6 (3)	1	4 (3)	1
1994	10 (2)	3 (2)	4	3
1995	9 (4)	2 (1)	4 (2)	3 (1)
1996	13 (3)	5 (2)	7 (1)	1
1997	14 (2)	4 (1)	4	6 (1)
1998	15 (1)	5	4 (1)	6
1999	15	6	3	6
総数	93 (20)	33 (10)	33 (8)	27 (2)

() 内は児のHIV陽性再掲数

国籍化の傾向が見られる(表 25)。日本人 HIV-1 感 男性と外国人 HIV-1 感染女性とのカップルは 35

表26 両親の国籍の組み合わせ

母親	人数	父親	人数
日本	33	日本	18
		外国	11
		不明	4
東南アジア	39	日本	25
		外国	5
		不明	9
アフリカ	11	日本	10
		外国	1
		不明	0
南米	10	日本	0
		外国	10
		不明	0
総数	93		93

表27 父親の国籍と父親の感染の有無

地域	父の国籍	人数	父のHIV陽性	父のHIV陰性	未確定or不明
東アジア	日本	54	13	30	11
東南アジア	タイ	5	2	0	3
	マレーシア	2	2	0	0
アフリカ	ケニア	3	3	0	0
	ガーナ	1	0	1	0
	ザイール	1	0	0	1
	ジンバブエ	1	1	0	0
	ブルンディ	1	0	0	1
	南米	ブラジル	7	4	3
	ペルー	2	0	0	2
	ボリビア	2	0	0	2
	ドミニカ	1	1	0	0
北米	アメリカ	1	1	0	0
父の国籍不明		12	0	2	10
総数		93	27	36	30

染女性と日本人のカップルは 18 組であり、日本人 組であった(表 26)。父親の国籍と父親の HIV-1 感

表28 年次別母児感染予防対策

出生年	出生数	予定帝王切開				緊急帝王切開				経歴分娩		様式不明
		母児とも 投薬なし	予防投薬 母のみ	児のみ	母と児	母児とも 投薬なし	予防投薬 母のみ	児のみ	母と児	合計	合計	
1987	1 (1)											
1988	0											
1989	3	1										
1990	1	1										
1991	2 (2)	1 (1)										
1992	4 (2)			1								
1993	6 (3)	1										
1994	10 (2)	1	2									
1995	9 (4)	2	2 (1)									
1996	13 (3)	2	2	1	1							
1997	14 (2)	2	3	1	4							
1998	15 (1)		1	1	12							
1999	15				14							
総数	93 (20)	11 (1)	10 (1)	3 (0)	31 (0)	8 (3)	0	2	0	11 (3)	24 (14)	1 (1)

()内は児のHIV陽性の内数再掲数

染状況についてみると、父親が日本人の場合陽性率は 24.1% (13 例/54 例) であるのに対し、父親が外国人の場合陽性率は 51.9% (14 例/27 例) と高い傾向が見られた (表 27)。

5. 実施された母子感染防止対策

表 28 に実施された母子感染防止対策を年次別に示した。分娩法別の例数をみると、経膈分娩数は 1993 年までは過半数を占めていた。一方、予定帝王切開は 1994 年から着実に増加し、1998 年、1999 年は共に 15 例中 14 例 (93.3%) を占めるに至っている。出産した 93 例の HIV-1 感染女性のうち、妊娠中に抗レトロウイルス剤を服用していたことが明らかな女性は 41 例 (44.1%) であった。抗レトロウイルス剤の投与を受けた妊婦の数は、1993 年以前には 1 例もなかったが、1994 年から投与症例が現れ、1997 年以降急増し 1999 年には 15 例中 14 例に達した。投与薬剤は AZT 単剤が 32 例と大多数を占め、投薬期間は妊娠前から出産直前の投与例ま

でさまざまであり平均投薬期間は 12.5 週であった。2 種類の核酸系逆転写酵素阻害剤とプロテアーゼ阻害剤の投与を受けていた症例も 5 例あり、このうちの 1 例は妊娠の全経過にわたって d4T+3TC+NFV の投与を受けていた。児への抗レトロウイルス剤投与は 1995 年より行われるようになり、これも 1997 年以降急増している。現在有効と考えられている母児感染防止対策である母体への抗レトロウイルス剤投与・予定帝王切開・児への抗レトロウイルス剤投与の全てが行なわれた症例は 1996 年の 1 例が最初であるが、1999 年には HIV-1 感染妊婦からの出生児 15 例中 14 例に行なわれている。経膈分娩症例中には母体あるいは児に抗レトロウイルス剤投与が行なわれた症例は 1 例もなかった。

6. 感染防止対策の効果

分娩様式別に HIV-1 陽性の小児数を比較すると予定帝王切開では未確定例 6 例を除いた 51 例中 49 例が陰性で陽性症例は 2 例のみであったが、経

表 29 感染防止対策別予防効果

分娩方法	投薬	児のHIV陽性	児のHIV陰性	感染不明	児の陽性率
経膈分娩	母児とも投薬なし	14	10	0	58.3%
	予定帝王切開				
	母児とも投薬なし	1	9	1	10.0%
	母のみ投薬	1	9	0	10.0%
	児のみ投薬	0	3	0	0%
	母と児に投薬	0	27	4	0%
	投薬不明	0	1	1	0%
	予定帝王切開合計	2	49	6	3.9%
緊急帝王切開	母児とも投薬なし	3	5	1	37.5%
	母のみ投薬	0	0	0	0%
	児のみ投薬	0	1	0	0%
	母と児に投薬	0	0	0	0%
	投薬不明	0	0	1	0%
	緊急帝王切開合計	3	6	2	33.3%
分娩様式不明	投薬不明	1	0	0	100%
全体の合計		20	65	8	23.5%

臍分娩では 24 例中 14 例が陽性、緊急帝王切開では 9 例中 3 例が陽性であった。予定帝王切開群は臍分娩群、緊急帝王切開群に比較して有意に陽性者が少なかった (χ^2 検定, $P < 0.01$)。予定帝王切開に母体と児への抗レトロウイルス剤投与を組み合わせた症例では母子感染の成立した症例は 1 例も無かった (表 29)。

7. 妊娠中の抗レトロウイルス剤投与が児に及ぼす影響

妊娠中に投与された抗レトロウイルス剤投与が児に及ぼす影響について薬剤投与群および非投与群に分けて検討した (表 30)。母親の国籍は多国にわたるが、児の子宮内発育に与える影響については日本のデータ (1994 年厚生省研究班) により判定した。薬剤投与群の SGA (small for gestational age infant = 在胎週数別の出生体重が 10% tile 未満) 症例は、予定帝王切開により在胎 36 週 2056 g にて出生の男児で妊娠 33 週から AZT の投与を受けていた。薬剤非投与群の SGA 症例は在胎 36 週 1,860 g 女児、

在胎 38 週 1,765 g 男児、在胎 34 週 1,434 g 男児の 3 例である。SGA の発生頻度は母親への薬剤投与群・非投与群の間で有意差は無かった。仮死の有無については Apgar score により判断した。薬剤投与群の重度仮死症例は在胎 36 週 2,205 g 予定帝王切開にて出生の女児で妊娠 14 週から AZT の投与を受けていた。Apgar は 1 分後 2 点、5 分後 7 点であった。薬剤投与群の中等度仮死症例は在胎 33 週 2,040 g 予定帝王切開にて出生の男児での症例で妊娠 16 週から AZT の投与を受けていた。Apgar は 1 分後 3 点、5 分後 6 点であった。新生児仮死の発生頻度についても母親への薬剤投与群・非投与群の間で有意差は無かった。

臨床医からの HIV 母子感染に対する意見

産婦人科、小児科に対する全国調査を行った際に、HIV 母子感染に対する意見も併せて求めた。以下に、寄せられた意見の一部を記載する。

- どのように (HIV 母子感染に) 対応するかのマニュアルがほしい。
- 乳幼児でも服薬しやすい剤形の開発。

表 30 母体に投与された抗レトロウイルス剤が児に及ぼす影響

		薬剤投与群	薬剤非投与群
症例数		41	47
在胎週数	週数記載例	41	38
	在胎週数	33w- 38w	29w- 41w
	平均	35.9w	36.6w
出生体重	体重記載例	41	43
	出生体重	1988- 3528 g	1474- 3716 g
	平均	2564.1 g	2788.8 g
	SGA 数*	1 例	3 例
仮死**	Apgar 記載症例	38	28
	重度仮死数	1	0
	中等度仮死	1	0
	軽度仮死数	10	9

*SGA 数 (small gestational age infant): 1994 年厚生省研究班により判定

**仮死: 仮死なし: Apgar 8-10、軽度: 5-7、中等度: 3-4、重度: 0-2

- HIV 母子感染予防の為の日本での標準的な方法が確立されていない。ガイドラインを作成する必要がある。
- 出産時は（小児は）入院しており検査できるが、その後来院しない例がほとんどで経過をおえていないのが実情である。
- HIV 感染母体からの出生児の検査、予防措置、投薬などの診療について、一定のガイドラインを早く作ってほしい。
- どの施設でも（HIV 感染妊婦、その児を）診療できるような体制、治療方針作りが必要である。
- （HIV 母子感染の）最新の情報を単一ソースから簡単に得ることが困難である。
- 母子感染をおこさせないための公報活動が最も大切だと思う。
- 最近 HIV に関する啓蒙活動が下火になっている。若者の間で、自分が感染する可能性について現実感のある教育をすべきである。
- 全国規模の実際的な（HIV 母子感染に対する）診療システムの整備が必要である。
- 妊娠初期において、HIV 検査の補助があると検査しやすい。
- 妊婦の HIV のスクリーニングの状況について知りたい。
- 現在全く（HIV 母子感染に対する）経験が無いが、対処の仕方など情報が欲しい。
- Safe sex and steady partner の教育を進めるべき。
- HIV 感染に対する偏見をまず臨床医が持たないように啓蒙すべきである。
- プライバシーの保護と偏見をなくす努力が必要である。
- HIV 感染者は子供を産むべきではない。「私達も子供は欲しい。」と言うのはエゴである。気の毒なのは、感染しなかったとしても、親のない子になる子供の方である。
- 今後 HIV 陽性小児が増加すると考えられるが、その紹介に際しては、プライバシー遵守は当然

のこととして、陽性であることを診療情報提供書に明記すること。

- 実際の地域医療においては、産科開業医において出生した児が、小児科医の診察を受ける機会が少ないと考える。
- HIV 検査は、全妊婦に義務づけて欲しい。
- 東南アジア、南米等の外国人の子を診る機会が結構あるが、自主申告でもなければ、発症はとにかくとして感染の有無は調べようが無く小児科医としては深い関心を持ってはいても、実際は全く判らない。

これらの意見のうち、多くのものは HIV 母子感染に対する情報の不足を訴えている。このような、臨床医の意見に対し、HIV 母子感染に対処する為のマニュアルだけでなく、今年度までに本グループが行った調査結果等の情報を早急に全国に提供すべきである。

考 察

全国の主要な産婦人科、小児科診療施設を対象にアンケートをおこない我が国での HIV-1 感染女性の出産、母子感染防止対策の実施状況、母子感染防止対策の効果、妊娠中の抗レトロウイルス剤投与の胎児に与える影響などにつき調査した。回答率は、産婦人科では全国で約 8 割にのぼり、得られた結果は十分に日本国内の HIV-1 感染妊婦の現状を反映していると考えられる。今回の調査は、産婦人科を有する病院を対象としており、日本での分娩件数の約半数（43.7%）を補足している。今後、個人開業医・産科医院を含めた全国調査を実施することにより、さらなる日本国内での母子感染の把握が可能となるであろう。都道府県別の「HIV 感染者・AIDS 患者合計」と「HIV 感染妊婦数」とに非常に高い相関が見られたのは当然の帰結である。今回の調査では、新たに全国でのべ 62 人の HIV-1 感染妊婦の把握が出来た。近年の HIV-1 感染妊婦数の増加

の要因としては、生殖年齢の感染者の増加、妊婦の HIV-1 スクリーニングによる補足率の上昇等があげられる。今回の調査では、妊婦に対する HIV-1 抗体検査の実施率を併せて調査している。その結果、検査率は全国平均で 76.5%であった。日本国内の病院では約 4 人に 3 人が検査を受けていることになるが、これは地域格差が非常に大きかった。抗体検査率の数値と都道府県別の「HIV 感染者・AIDS 患者合計」とは、やや相関しており、HIV-1 感染者の少ない地域での抗体検査率の低さが目立った結果となった。これは、さらにこれらの地域での医師の HIV-1 感染に対する意識調査などが必要であろう。また、青森県、埼玉県、千葉県では、妊婦に対する HIV-1 抗体検査の公的補助が開始されているが、これらの県では全国平均よりも検査率が高いものの 100%ではなかった。病院を区分してこの調査結果を再分析してみると、拠点病院及び大学病院で検査率が他よりも高いことが明らかになった。しかし、拠点病院のなかにも、妊婦の HIV-1 抗体検査を全く実施していない病院も存在する。日本の医療レベルから鑑みると、妊婦の HIV-1 感染が判明した後の診療対策と感染妊婦の医療に対する同意と協力の程度はかなり高い水準にあるものと考えられる。HIV 母子感染予防対策の初期動作は、いかに多くの妊婦に対し抗体検査を実施できるかにかかっているものと思われる。

小児科では、2 次アンケートの回答率は 62.4%と決して高率とは言えず、集計結果には偏りがある可能性がある。母子感染の成立した症例についても今回把握できた症例は 20 例であったのに対し、厚生省の統計によれば HIV 母子感染例は累計 22 例（平成 11 年 12 月 31 日現在：HIV 感染者の届出状況）に達しており、今回のアンケート調査では補足できなかった症例が少なくとも 2 例はあるといえる。1 次アンケートで「症例経験あり」としながら 2 次アンケートでは「症例なし」と修正された回答が 11 件と 2 次アンケート回答の 10%以上を占めたこととあわせ、医学的にも社会的にも報告しやすい

症例が集まり、なんらかの問題がある症例は報告されていない可能性がある。

近年の HIV 感染妊婦の分娩数の増加要因としては、生殖年齢の感染者数の増加、妊婦スクリーニング等による補足率の上昇などが考えられる。中絶数・死産数を含めた総数および母親の HIV 感染判明の契機を調査することによりこれらの点は明らかになるものと思われる。年次別の感染妊婦数の推移では 1992 年より増加傾向にあり、欧米のように HIV 感染者や HIV 感染妊婦の減少は現時点では期待されない。一方、分娩数の増加に比し母子感染数の増加が低く押さえられている要因としては感染防止対策の効果が最も大きいものと考えられ、これは近年母子感染対策として予定帝王切開と母体および児への抗レトロウイルス剤投与が積極的に行なわれていることおよびその感染防止効果から見ても明らかである。パートナーの国籍と HIV-1 感染状況についてみると、パートナーが外国人の場合パートナーが日本人の場合に比して陽性者が多い傾向が見られた。また、妊婦の国籍は日本人とタイ人が主であるが、日本人の感染妊婦の増加と国籍の多様化傾向が見られた。今回の調査では、CD4⁺T リンパ球数や CD4⁺/CD8⁺比が母子感染のリスクファクターとなることが証明できなかったが、今後症例の蓄積により可能となるであろう。ウイルス RNA コピー数が測定されていた症例では、32 例中 21 例で抗レトロウイルス剤が投与され、選択的帝王切開を施行しているものの、32 例中 28 例は 100,000 コピー/ml 未満であり、全例が母子感染を免れている。

母子間感染防止対策としては前述のように、近年予定帝王切開と母体および児への抗レトロウイルス剤投与が積極的に行なわれており、1998、1999 年の両年では出生児 30 例中、妊婦への抗レトロウイルス剤投与が 27 例（90.0%）、予定帝王切開が 28 例（93.3%）、児への予防的投薬が 27 例（90.0%）におこなわれた。しかしながら、この 2 年のうちにも何ら母子感染対策が行なわれず出生した症例も 2 例あり 1 例は児の感染成立に至っている。予定帝王

切開が行なわれた症例では児への HIV-1 感染が成立した症例は 51 例中 2 例のみであり、予定帝王切開に母体と児への抗レトロウイルス剤投与を組み合わせ、現時点での最も有効な母児感染予防対策であると考えられる。これらの結果から今後妊婦の HIV-1 スクリーニングと母子感染防止対策の一層の普及が必要であることが示唆された。妊娠中に投与された抗レトロウイルス剤が児に及ぼす影響については、今回の調査では生下時体重と Apgar score についてしか検討できなかった。これで見限りでは、母体への抗レトロウイルス剤投与は子宮内発育および新生児仮死には影響を与えていなかった。母体への抗レトロウイルス剤投与が普及し、今後は妊娠初期から HAART 療法が行なわれる症例も増加するものと考えられるため、胎児に与える短期的長期的な影響については発達面も含め今後注意深く検討していく必要がある。現時点では、妊娠中の AZT 以外の抗レトロウイルス剤投与に関しては、未だ安全性は証明されていない。AZT 投与と予定帝王切開によって母子感染率が 1.3%にまで低下し得ることを考慮すると、むしろ多剤併用療法に関しては慎重な選択が要求される。

臨床医から本グループに対して寄せられた意見では、多くが HIV 母子感染に対する情報の不足を訴えている。また、HIV 母子感染を経験したことのない医療機関に問い合わせがあるなど、HIV 母子感染に関する情報をどこから入手できるのかも判らない状態にある傾向がある。本グループに対して寄せられた臨床医の意見に対し、HIV 母子感染に対処する為のマニュアルだけでなく、今年度までに本グループが行った調査結果等の情報を早急に全国に提供し、日本国内での HIV 母子感染に対する窓口を創設する必要がある。

今回の全国調査は、産婦人科・小児科それぞれの臨床医に対してアンケート調査がなされたため、産婦人科医より得られた結果と、小児科医から得られた結果と、若干の差異があった。今後、この両者から得られた結果をもとに、両者間での重複症例を

検討し、産婦人科、小児科を統合した日本における HIV 母子感染のデータベースの作成が必要となる。

結 論

妊婦の早期での HIV-1 感染の診断が小児への母子感染を有意に抑制させることが可能であることから、更なる抗体検査率の上昇をはかる手段が必要とされると同時に、近年でも一切の母子感染対策が行われず出生した症例があることから、本グループの作成したマニュアルを全国の産婦人科小児科を有する医療施設に配付し、HIV-1 感染妊婦及びその児に対する適切な処置方法を普及させ、今後さらに増加すると予測される HIV-1 感染妊婦への対応を日本国内のすべての病院で行えるようにする必要がある。尚、本研究グループの作成した「HIV 母子感染予防対策マニュアル」を資料として別途記載した。

研究論文・学会発表

研究論文

- 1) Kita T, Kikuchi K, Kudoh K, Takano M, Goto T, Hirata J, Tode T and Nagata I: Exploratory study of effective chemotherapy to clear cell carcinoma of the ovary. *Oncology Reports* 7: 327-331, 2000
- 2) Kudoh K, Yoshihiro Kikuchi Y, Kita T, Tode T, Takano M, Hirata J, Mano Y, Yamamoto K and Nagata I: Preoperative determination of several serum tumor markers in patients with primary epithelial ovarian carcinoma. *Gynecol Obstet Invest* 47: 52-57, 1999
- 3) Tode T, Kikuchi Y, Hirata J, Kita T, Nakata H and Nagata I: Effect of Korean red ginseng on psychological functions in

- patients with severe climacteric syndromes. *International Journal of Gynecology & Obstetrics* 67: 169-174, 1999
- 4) Mano Y, Kikuchi K, Yamamoto K, Kita T, Hirata J, Tode T, Ishii K and Nagata I: Bcl-2 as a predictor of chemosensitivity and prognosis in primary epithelial ovarian cancer. *European Journal of Cancer* 35: 1214-1219, 1999
 - 5) Sugiura W, Matsuda M, Abumi H, Yamada K, Taki M, Ishikawa M, Miura T, Fukutake K, Gouchi K, Ajisawa A, Iwamoto A, Hanabusa H, Mimaya J, Takamatsu J, Takada N, Kakishita E, Yoshioka A, Kashiwagi S, Shirahata A and Nagai Y: Prevalence of Drug Resistance ñ Related Mutations among HIV-1 s in Japan 1999 *Jpn.J.Infect.Dis.* 52: 21-22,1999
 - 6) Sugiura W, Matsuda M, et al: Identification of insertion mutations in HIV-1 reverse transcriptase causing multiple drug resistance to nucleoside analogue reverse transcriptase inhibitors. *J Hum Virol.* May-Jun 2(3):146-153, 1999
 - 7) Aizawa S, Ida S, Sakai-Hachitya A, Tanaka M, Takahashi Y, Hirabayashi Y, Sugiura W, Kimura S and Oka S: Intension-to-Treat analysis of Anti-HIV therapies and incidence of drug resistance after a year of treatment. (抗 HIV-1 療法と 1 年後の薬剤耐性の頻度に関する Intension-to-treat analysis). *Jpn.J.Infect.Dis.*, Vol 52: 129-131, 1999
 - 8) Oishi T, Sugiura W, Matsuda M et al: Status of Anti-HIV-1 Chemotherapy in Japan 1999 *Jpn.J.Infect.Dis.* 52: 51-52, 1999
 - 9) Sugiura W et al: Two Possible Pathwayss for Acquisition of Mutations related to Nelfinavir. *Jpn.J.Infect.Dis.*, Vol52,No 4: 175-176, 1999
 - 10) Kamoi K, Toyama M and Sudo N: A Case of Cushing's Disease revealed Six years after postpartum Hypopituitarism, *J Clinical Endocri & Metabo* 84: 2718-2723, 1999
 - 11) Takano M, Kikuchi Y, Aida S, Sato K and Nagata I: Embryonal rhabdomyosarcoma of the uterine corpus in a 76-year-old patient. *Gynecologic Oncology* 75: 490-494, 1999
 - 12) Kudoh K, Takano M, Koshikawa T, Hirai M, Yoshida S, Mano Y, Yamamoto K, Ishi K, Kita T, Kikuchi Y, Hirata J, Nagata I, Miwa M and Uchida K: Gains of 1q21-q22 and 13q12-q14 are potential indicators for resistance to cisplatin-based chemotherapy in ovarian cancer patients. *Clinical Cancer Research* 5: 2526-2531, 1999
 - 13) Tsukahara Y, Wakatsuki A and Okatani Y: Antioxidant role of endogenous coenzyme Q against the ischemia and reperfusion-induced lipid peroxidation in fetal rat brain. *Acta Obstet Gynecol Scand* 78: 669-674, 1999
 - 14) Hayakawa S, Nagai N, Kanaeda T, Karasaki-Suzuki M, Ishii M, Chishima F and Satoh K: Interleukin-12 augments cytolytic activity of peripheral and decidual lymphocytes against choriocarcinoma cell lines and primary culture human placental trophoblast. *Am J Reprod Immunol AJRI* 41: 320-329, 1999
 - 15) Ishii M, Hayakawa S and Satoh K: Roles of HOX genes in the growth, differentiation and malignant transformation of human

- trophoblast. *Nihon Univ J Med* 41: 339-350, 1999
- 16) Mugishima H, Harada K, Chin M, Suzuki T, Takagi K, Havakawa S, Satoh K, Klein JP and Gale RP: Effects of long-term cryopreservation on hematopoietic progenitor cells umbilical cord blood. *Bone Marrow transplantation* 23: 395-396, 1999
 - 17) Hayami M, Igarashi T, Kuwata T, Ui M, Haga T, Ami Y, Shinohara K and Honda M: Gene-mutated HIV-1/SIV chimeric viruses as AIDS live attenuated vaccines for potential human use. *Leukemia*. Apr. 13, Suppl. 1, S42-47, 1999
 - 18) Shinohara K, Sakai K, Ando S, Ami Y, Yoshino N, Takahashi E, Someya K, Suzuki Y, Nakasone T, Sasaki Y, Kaizu M, Lu Y and Honda M: A highly pathogenic simian/human immunodeficiency virus with genetic changes in cynomolgus monkey. *J. General Virology* 80: 1231-1240, 1999
 - 19) Kato K, Shiino T, Kusagawa S, Sato H, Nohtomi K, Shibamura K, Nguyen Tran Hien, Pham Kim Chi, Truong Xuan Lien, Mai Hoang Anh, Hoang Thuy Long, Bunyaraksyotin G, Fukushima Y, Honda M, Wasi C, Yamazaki S, Nagai Y and Takebe Y: Genetic similarity of HIV type 1 Subtype E in a recent outbreak among injecting drug users in Northern Vietnam to strains in Guangxi province of Southern China. *AIDS Research & Human Retroviruses* Vol.15, No.13: 1157-1168, 1999
 - 20) Yoshino N, Ryu T, Sugamata M, Ihara T, Ami Y, Shinohara K, Tashiro T and Honda M: Direct detection of apoptotic cells in peripheral blood from highly pathogenic SHIV-inoculated monkey. *Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC)* 268: 868-874, 2000
 - 21) Yoshino N, Ami Y, Someya K, Ando S, Shinohara K, Tashiro F, Lu Y and Honda M: Protective immune responses induced by a non-pathogenic simian/human immunodeficiency virus (SHIV) against a challenge of a pathogenic SHIV in monkey. *Microbiology and Immunology* 2000 in press.
 - 22) Yoshino N, Shinohara K, Ami Y, Terao K, Someya K, Sugamata M, Ihara T, Tashiro F, Kirii Y, Yoshino K and Honda M: Detection of in vivo apoptosis which is distinct from initial decline of CD4+ lymphocyte count in monkeys infected with a highly pathogenic simian/human immunodeficiency virus. *J. General Virology* 2000 submitted.
 - 23) Nakasone T, Shinohara K, Ami Y, Yoshino N, Kaizu M, Takahashi E, Touzjian N, Lu Y, Nagai Y and Honda M: SHIV carrying C1-V3 of HIV-1 subtype E infected to a cynomolgus monkey. *J. Med. Primatol.*, 2000 (in press)
 - 24) Sasaki Y, Ami Y, Shinohara K, Takahashi E, Ando S, Someya K, Suzuki Y, Nakasone T and Honda M: Induction of CD95 ligand expression on CD8+ T-lymphocyte correlates with HLA-DR expression and contributes to apoptosis of CD95-upregulated CD4+ T-cells in macaques by infection with a pathogenic simian/human immunodeficiency virus. *Clin & Exp Immunol*, submitted 1999
 - 25) Nakasone T, Takamatsu J, Yamada K, Honda M and Nagai Y: Decline in the

- HIV-1 isolate rate in Japan. Lancet, submitted 2000
- 26) 井村総一：ウイルス感染母体から出生した小児，小児科診療 62(増刊): 604-607, 1999
 - 27) 井村総一：学会雑感，第43回日本未熟児新生児学会，小児科臨床 52: 372, 1999
 - 28) 井村総一：超低出生体重児の感染予防，Medical Tribune 32: 42-43, 1999
 - 29) 井村総一：TORCH症候群，産婦治療 78(増刊): 1046-1049, 1999
 - 30) 井村総一：HIV-1感染症，周産期医学 29(増刊): 429-433, 1999
 - 31) 井村総一：HIV 母子感染予防と新生児管理，小児科診療 62: 1734-1736, 1999
 - 32) 井村総一：母児感染の予防，周産期医療研修ノート: 51-69, 総合母子保険センター，東京，1999
 - 33) 大久保秀夫：エイズ拠点病院と地域医療機関・保健所・行政との関連に関する研究，厚生省エイズ対策研究事業「HIV 感染症の医療体制に関する研究」平成10年度研究報告:116-142, 1999
 - 34) 梶本博子，清水次子，民田永理，楠瀬すみ，中林佳信，立花佳代，納谷真由美，岡野創造，北條 誠，大久保秀夫，川勝秀一，今宿晋作，館石捷二：骨髄移植後に認められた腎機能障害の検討，日本小児腎臓病学会誌 12 (1): 1-7, 1999
 - 35) 大久保秀夫：小児の HIV 感染における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン（訳），平成11年度厚生省エイズ対策研究事業「HIV 感染症の医療体制に関する研究」班助成発行 1999
 - 36) 喜多恒和，井村総一，大久保秀夫，大場 悟，鈴木三郎，須藤寛人，高野政志，高山直秀，塚原優己，土江秀明，戸谷良造，仲宗根正，本多三男，保田仁介，吉野直人：母子感染に関する研究．平成10年度厚生科学研究費補助金 エイズ対策研究推進事業 HIV 感染症の疫学研究研究報告書: 440-457, 1999
 - 37) 喜多恒和，菊池義公，工藤一弥，高野政志，永田一郎：卵巣明細胞腺癌に対する化学療法．産婦人科の実際 48: 1551-1556, 1999
 - 38) 喜多恒和，菊池義公，工藤一弥，高野政志，永田一郎：再発癌に対する治療：review とこれからの治療法．産科と婦人科 66: 1462-1470, 1999
 - 39) 斉藤恵子，後藤友子，工藤一弥，喜多恒和，菊池義公，永田一郎：鼠径リンパ節転移に対する漿液性腺癌と軟骨肉腫様化生を呈した卵巣癌の1症例．日本産婦人科腫瘍学会雑誌 17: 156-158, 1999
 - 40) 後藤友子，喜多恒和，高野政志，工藤一弥，斉藤恵子，菊池義公，永田一郎：上皮性卵巣癌に対する化学療法の個別化．埼玉県医学会雑誌 34: 123-129, 1999
 - 41) 杉浦 亙：抗 HIV-1 薬剤と薬剤耐性ウイルス．BIO Clinica 14(5): 28-34, 1999
 - 42) 須藤寛人，萬歳淳一，網倉貴之，安田雅子，安達茂実，児玉省二：糖尿病合併妊娠および妊娠糖尿病，長岡赤十字病院医学誌 12: 59-64, 1999
 - 43) 太田博明，大浜紘三，岡部三郎，加藤紘，加納武夫，木下勝之，蔵本博行，近藤厚生，相良洋子，須藤寛人，高橋克幸，土橋一慶：高齢女性のケア．日本母性保護産婦人科医会研修ノート No.63, 1999
 - 44) 安田雅子，永田裕子，岡村真由美，安達茂実，児玉省二，須藤寛人：当科における母体搬送の現況，日本産科婦人科学会新潟地方部会誌 82: 1-3, 1999
 - 45) 永田裕子，児玉省二，岡村真由美，安田雅子，安達茂実，須藤寛人：若年者卵巣腫瘍についての検討，日本産科婦人科学会新潟地方部会誌 82: 11-14, 1999
 - 46) 西川伸道，児玉省二，永田裕子，安田雅子，

- 安達茂実, 須藤寛人: Kasabach-Merritt 症候群を呈した新生児頸部血管腫の一例, 日本産科婦人科学会新潟地方部会誌 82: 15-17, 1999
- 47) 高山直秀: AIDS の最新治療, 小児看護 22 (2): 157-165, 1999
- 48) 高山直秀: 水痘・帯状疱疹ウイルス, 小児感染免疫 11 (2): 190-192, 1999
- 49) 高山直秀, 大隈邦夫, 作間 晋: 狂犬病ワクチン成分に対する過敏反応のため皮内接種法により狂犬病曝露前免疫を行った 1 例, 感染症学雑誌 73 (6): 600-601, 1999
- 50) 高山直秀: 感染症とその治療 狂犬病, 最新医学 54: 1396-1403, 1999
- 51) 高山直秀: 輸入感染症 狂犬病, 臨床とウイルス 27 (4): 311-317, 1999
- 52) 高野政志, 黒田浩一, 小林充尚, 菊池義公, 永田一郎: 妊娠 27 週において塩酸リトドリンによる肝機能障害を来した単胎の 1 症例—本邦および諸外国の報告をまとめて—, 産婦人科の実際 48 (9): 1279-1284, 1999
- 53) 高野政志, 工藤一弥, 真野佳典, 山本謙二, 平松久和, 石井賢治, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の化学療法抵抗性に関する遺伝子変化, 第 12 回関越 UFT 研究会講演集: 19-23, 1999
- 54) 高野政志, 工藤一弥, 山本謙二, 真野佳典, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の遺伝子解析による化学療法抵抗性の予測, 産婦人科の世界 51: 421-425, 1999
- 55) 山本謙二, 平田純子, 工藤一弥, 高野政志, 豊泉 長, 平松久和, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: タキセン化合物によるシスプラチン感受性の増強機構に関する研究, *Oncology & Chemotherapy* 15: 115-119, 1999
- 56) 高野政志, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: CYVADIC 療法が奏効した S 状結腸間膜原発平滑筋肉腫の 1 症例, 癌と化学療法 26: 1487-1490, 1999
- 57) 高野政志, 村上充剛, 古谷健一, 喜多恒和, 工藤一弥, 菊池義公, 永田一郎: 腹膜無縫合による術後リンパ嚢胞の予防, 産婦人科の世界 51: 407-408, 1999
- 58) 外川正生, 塩見正司: HIV/AIDS 母子感染/非感染の 4 例について, *MINOPHAGEN MEDICAL REVIEW* 44: 115-117, 1999
- 59) 塩見正司, 外川正生: 手足口病の最近の話題—エンテロウイルス 71 による神経合併症, 小児診療 62: 366-371, 1999
- 60) 早川 智, 佐藤和雄: 生殖免疫の話, 診断と治療社, 1999
- 61) 佐藤和雄著, 産婦人科 20 世紀のあゆみ, メディカルビュー社,
- 62) 早川 智: 母体リンパ球の Th1/Th2 均衡と活性化異常からみた妊娠異常の解析, 日本産科婦人科学会雑誌 51: 626-632, 1999
- 63) 早川 智, 佐藤和雄: 腫瘍免疫と妊娠免疫 Th1/Th2 の視点から, 日大医学雑誌 58: 77-85, 1999
- 64) 早川 智, 佐藤和雄: 妊娠と Th1/Th2. 炎症と免疫 7: 251-259, 1999
- 65) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 1 音楽家の寿命, 産科と婦人科 66: 131-133, 1999
- 66) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 2 パッハ・ヘンデル・白内障, 産科と婦人科 66: 291-293, 1999
- 67) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 3 ショパンの肺疾患, 産科と婦人科 66: 423-425, 1999
- 68) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 4 ブラムスとビルロートの友情, 産科と婦人科 66: 563-565, 1999
- 69) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 5 日曜作曲家ボロディン教授, 産科と婦人科 66: 680-681, 1999
- 70) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学 6 パ

- ガニーニと関節過伸展. 産科と婦人科 66: 837-839, 1999
- 71) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学7 落第医学生ベルリオーズ. 産科と婦人科 66: 957-959, 1999
- 72) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学8 ゴッホに見えた世界. 産科と婦人科 66: 1093-1096, 1999
- 73) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学9 モネの視力障害. 産科と婦人科 66: 1206-1207, 1999
- 74) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学10 シューマンと多重人格. 産科と婦人科 66: 1347-1349, 1999
- 75) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学11 レオナルド・ダ・ビンチと左利き. 産科と婦人科 66: 1701-1703, 1999
- 76) 早川 智, 佐藤和雄: ミューズの病跡学12 チャイコフスキーとコレラ. 産科と婦人科 66: 1803-1805, 1999
- 77) 保田仁介: 妊娠時における抗生物質の使用法, 斉藤厚編, 感染症と抗生物質の使い第3版: 209-212, 文光堂, 東京, 1999
- 78) 保田仁介: 産婦人科, 島田馨編, 最新・感染症治療指針99年度改訂版: 173-180, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1999
- 79) 保田仁介: トリコモナス, 熊沢淨一編, 開業医のための性感染症: 120-126, 南山堂, 東京, 1999
- 80) 保田仁介: 付属器炎, PID, 川名尚編, 女性と感染症: 203-210, 新女性医学大系10, 中山書店, 東京, 1999
- 81) 保田仁介: 骨盤内感染症, 1999 今日の治療指針: 732, 医学書院, 東京, 1999
- 82) 岡田弘二, 保田仁介, 松田静治他: Pazuloxacin 注射薬の骨盤死腔液への移行および骨盤腹膜炎に対する臨床的検討, 日本化学療法学会雑誌 47S-1: 242-248, 1999
- 83) 保田仁介, 川邊いずみ, 本庄英雄他: PIDの診断と治療開始時の薬剤選択についての検討, 日本性感染症学会誌 10: 104-107, 1999
- 84) 保田仁介: 抗菌剤の選び方と使い方, 産婦人科治療 79: 281-286, 1999
- 85) 保田仁介: 非淋菌・非クラミジア性子宮頸管炎, 化学療法の領域 15: S-1, 221-224, 1999
- 86) 保田仁介: 抗生剤・抗菌剤, 臨床婦人科産科 53: 550-552, 1999
- 87) 保田仁介: 抗菌薬-妊婦への薬物投与, 医薬ジャーナル 35:419-422, 1999
- 88) 保田仁介: 感染症 (HBV, HCV) 合併妊婦の管理, 日本産科婦人科学会雑誌 51:N87-90, 1999
- 89) 山崎修道, 本多三男: HIV ワクチン開発, 「化学療法の領域」増刊号, 「性感染症 (STD) の治療学的展望~STDの流行への対策~」Vol. 15: 237-246, 1999
- 90) 本多三男: エイズの正しい知識をもちよう1「正しく知れば怖くないエイズ」, 学校保健フォーラム, 健学社 Vol.3 No.17: 34-36, 1999
- 91) 仲宗根正: エイズの正しい知識をもちよう2「正しく知れば怖くないエイズ」, 学校保健フォーラム, 健学社 Vol.3 No.19: 35-37, 1999
- 92) 吉野直人: エイズの正しい知識をもちよう3「正しく知れば怖くないエイズ」, 学校保健フォーラム, 健学社 Vol.3 No.20: 32-33, 1999
- 93) 大洲竹晃, 松尾和浩, 本多三男: 「AIDS ワクチンの開発」『遺伝子医学』メディカルドウ, Vol.3 No.4: 102-108, 1999

学会発表

- 1) Kita T, Takano M, Totani R, Yoshino N, Honda M, Kihara M, Kikuchi Y, Nagata I, and Chin KV: NATIONAL COOPERATIVE STUDY ON VERTICAL TRANSMISSION OF HIV-1 IN JAPAN. The Second Conference on Global Strategies for the

- Prevention of HIV Transmission from Mother to Child. (1999.9.1-5 Montreal, Canada)
- 2) Totani R, Kihara M, Kita T, Yoshino N, Honda M and Imura S: A Report on the Results of an Epidemiological survey of MOTHER TO INFANT HIV VERTICAL INFECTION on Japanese hospitals. 5th international congress on AIDS in Asia and the Pacific (1999.10.21-27 Kuala Lumpur)
 - 3) Pitisuttithum P, Churdboonchart V, Kobayakawa T and Honda M: HIV/AIDS Vaccine Development. Prevention and Care of HIV/AIDS: Challenges for Asia AIDS Workshop in Asia (1999.6.23-26 Bangkok)
 - 4) Nakasone T, Shinohara K, Ami Y, Yoshino N, Kaizu M, Takahashi E, Touzjian N, Lu Y, Nagai Y and Honda M: SHIV carrying C1-V3 of HIV-1 subtype E infected to a cynomolgus monkey 17th Annual Symposium on Nonhuman Primate Models for AIDS (1999.10.5-11 New Orleans, LA.)
 - 5) Yamamoto H, Katsuyama K, Shinohara K, Ami Y, Nakasone T and Honda M: Induction of SHIV Specific Killer Activities, and the Effects of Neutralizing Humanized MAB(RC25) to Immunopathogenicity in the Pathogenic SHIV-C2/1 Infected Cynomolgus Monkeys. 17th Annual Symposium on Nonhuman Primate Models for AIDS, (1999.10.5-11 New Orleans, LA.)
 - 6) Honda M, Yamazaki S: A recombinant BCG vector-based vaccine for HIV-1: results of a preclinical study. 5th international congress on AIDS in Asia and the Pacific (1999.10.21-27 Kuala Lumpur)
 - 7) Honda M: Infectious Diseases Derived from Blood - Protective Immune Responses Induced by Candidate Vaccine for Human Immunodeficiency Virus Type 1-. The 5th Seminar on the Safe Supply of Blood Products (1999.11.19 Tokyo)
 - 8) Honda M, Warachit P: Structure & Design of the Cooperative Project and the Present Status. International Workshop "Research and Development of Recombinant BCG-Based HIV Vaccine (1999.11.22-23 Tokyo)
 - 9) Nakasone T: Vaccine Efficacy Tests in Animal Models International Workshop "Research and Development of Recombinant BCG-Based HIV Vaccine (1999.11.22-23 Tokyo)
 - 10) 井村 総一: HIV 母子感染予防と新生児管理. 第16回臨床小児研究会 (1999.5 東京)
 - 11) 井村 総一: HIV 母子感染予防と新生児・乳児期の管理. 第4回板橋区医師会医学会 (1999.7 東京)
 - 12) 田口 順教, 中村 昌徳, 黒森 由起, 岩村 美佳, 清水 達也, 間崎 亮介, 増永 健, 石関 しのぶ, 瀧川 逸朗, 井村 総一: 低出生体重児における血中 ANP, BNP の動態について (第2報) 一心エコー所見および胸郭比との関連一. 第102回日本小児科学会 (1999.4 東京)
 - 13) 瀧川 逸朗, 中村 昌徳, 黒森 由起, 田口 順教, 岩村 美佳, 石関 しのぶ, 秋山 和範, 井村 総一: 極低出生体重児における肺出血例の検討. 第102回日本小児科学会 (1999.4 東京)
 - 14) 井村 総一: 母子感染の予防. 周産期医療研修会 (1999.11 東京)
 - 15) 岩村 美佳, 黒森 由起, 中村 昌徳, 田口 順教, 石関 しのぶ, 瀧川 逸朗, 井村 総一: 極低出生体重児における生後早期の白血球減少一第2

- 報一. 第 35 回日本新生児科学会 (1999.7 高松)
- 16) 石関しのぶ, 黒森由起, 中村昌徳, 岩村美佳, 田口順教, 瀧川逸朗, 井村総一: 極低出生体重児における genital mycoplasma 感染症と慢性肺障害一気管内洗浄液による検討. 第 35 回日本新生児科学会 (1999.7 高松)
 - 17) 原裕子, 横山哲夫, 磯畑栄一, 井村総一, 麻生泰二: MRI が診断に有用であった神経皮膚黒色症の 1 例. 第 44 回日本未熟児新生児学会 (1999.11 岡山)
 - 18) 横山哲夫, 内藤敦, 磯畑栄一, 樋口麻子, 井村総一, 伊藤真樹, 近藤信哉, 吉田良一, 吉田智子: 嘔声で発症した喉頭蓋炎, 喉頭気管気管支炎の一新生児例. 第 44 回日本未熟児新生児学会 (1999.11 岡山)
 - 19) 梶本博子, 北條 誠, 納谷真由美, 安 炳文, 民田永理, 楠瀬すみ, 立花佳代, 岡野創造, 清水次子, 川勝秀一, 太久保秀夫, 館石捷二, 今宿晋作: 治療終了後左眼窩内に retroorbital mass を形成した再発した cALL の 1 例. 第 102 回日本小児科学会学術集会 (1999.4.24 東京)
 - 20) 太久保秀夫: 感染症新法の概要について. 京都市保健所研修会 (1999.5.27 京都)
 - 21) 太久保秀夫: 伝染病予防法から感染症予防法へ. 第 29 回京都府救急医療検討会教育講演 (1999.6.29 京都)
 - 22) 太久保秀夫: 伝染病予防法から感染症予防法へ. 第 382 回日本小児科学会京都京都地方会教育講演 (1999.8.17 京都)
 - 23) 太久保秀夫: 感染症と感染防御. 東近畿救急業務研究会教育講演 (1999.12.1 京都)
 - 24) 清水次子, 川勝秀一, 納谷真由美, 岡野創造, 北條 誠, 太久保秀夫, 館石捷二: 尿所見が改善した IgA 腎症の特徴について. 第 34 回日本小児腎臓病学会 (1999.5.28 新潟)
 - 25) 民田永理, 太久保秀夫, 安 炳文, 立花佳代, 納谷真由美, 岡野創造, 清水次子, 北條 誠, 川勝秀一, 山本哲郎: 重複大動脈弓による気管支閉塞を来した 1 乳児例. 第 382 回日本小児科学会京都京都地方会教育講演 (1999.9.25 京都)
 - 26) 太久保秀夫: HIV 感染幼児の診療上直面するさまざまな問題点について. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.3 東京)
 - 27) 太久保秀夫: MRSA 検出を激減させた未熟児室・新生児室での感染防止対策. 第 1 回京滋院内感染対策と治療研究会シンポジウム (1999.12.11 京都)
 - 28) 大場悟, 遠藤雄策, 山本崇晴, 平田善章: 重症感染症を契機に発見されたチアノーゼ性心奇形を伴わない無脾症候群の乳児例. 第 93 回日本小児科学会静岡地方会 (1999.11.21 浜松)
 - 29) 喜多恒和: 「本邦における HIV 母子感染の現状と対策」—全国調査結果より—. 静岡エイズシンポジウム (1999.3.20 静岡)
 - 30) 喜多恒和: 米国・タイおよび本邦における HIV 母子感染の現状と対策—日本における母子感染の現状と対策—. HIV 母子感染に関する国際ワークショップ (1999.2.16 東京)
 - 31) 松田昌和, 松田善衛, 永井美之, 杉浦互他 6 名: HIV-1 逆転写酵素に見いだされたアミノ酸挿入変異の薬剤感受性に及ぼす影響とその酵素活性の解析. 第 47 回日本ウイルス学会 (1999.11.7-9 横浜)
 - 32) 杉浦互, 椎野禎一郎, 松田善衛, 永井美之他 5 名: プロテアーゼ阻害剤による HIV-1 の薬剤耐性変異とウイルス適合性の解析. 第 47 回日本ウイルス学会 (1999.11.7-9 横浜)
 - 33) 有吉紅也, 杉浦互他 4 名: 西アフリカの抗 HIV-1 薬剤未治療感染者群における薬剤耐性ゲノタイプ. 第 47 回日本ウイルス学会 (1999.11.7-9 横浜)
 - 34) 大石毅, 松田昌和, 鏡英恵, 岡野愛子, 吉倉

- 廣, 永井美之, 杉浦互他 16 名: リトナビル, インジナビルあるいはサキナビル投与失敗例に対するネルフィナビル (NFV) の治療効果およびその薬剤耐性変異の進化. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 35) 岡野愛子, 大石毅, 松田昌和, 鏡英恵, 吉倉廣, 永井美之, 杉浦互他 16 名: 本邦における薬剤耐性 HIV-1 の 1996 年から 1999 年にかけての状況とその推移. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 36) 島田和典, 杉浦互, 松田昌和, 鏡英恵, 岡野愛子, 大石毅, 他 2 名: Enzyme Linked Mini-sequence Assay (ELMA) 法を用いた迅速 HIV 薬剤耐性変異検出方法の開発とその評価. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 37) 杉浦互, 松田昌和, 鏡英恵, 大石毅, 岡野愛子, 吉倉廣, 永井美之他 16 名: 遺伝子配列による薬剤耐性検査と薬剤感受性検査の相関. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 38) 鏡英恵, 松田昌和, 松田善衛, 大石毅, 岡野愛子, 吉倉廣, 永井美之, 杉浦互他 5 名: HIV-1 逆転写酵素コドン 69 近傍 2 アミノ酸挿入変異のウイルス増殖と酵素活性に及ぼす影響の解析. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 39) 松田昌和, 杉浦互, 横幕能行, 鏡英恵, 大石毅, 岡野愛子, 吉倉廣, 永井美之, 松田善衛: HIV-1 pol. 領域の組み換えウイルスによる薬剤感受性検査の確立-リコンビナントウイルスベクター pDRcv-1 の作製-. 第 13 回日本エイズ学会総会 (1999.12.2-4 東京)
- 40) 高山直秀: 海外渡航者への予防接種 第 25 回日本医学会総会シンポジウム; 輸入感染症 (1999.04 東京)
- 41) 高山直秀, 井戸田一朗, 加藤康幸: 比内および皮下接種併用法による狂犬病曝露前免疫の検討-第 1 報-. 第 73 回日本感染症学会総会 (1999.03 東京)
- 42) 高山直秀, 高山道子: 水痘ワクチン接種後の帯状疱疹を疑われた単純ヘルペス感染小児の 1 例. 第 40 回日本臨床ウイルス学会 (1999.05 大阪)
- 43) 佐藤 威, 岡田晴恵, 小船富美夫, 田代真人, 土屋喬義, 竹内可尚, 高山直秀, 宮塚幸子: ゼラチン粒子凝集法を用いた麻疹 IgM 抗体測定法の開発. 第 40 回日本臨床ウイルス学会 (1999.05 大阪)
- 44) 岡田晴恵, 小船富美夫, 佐藤 威, 田代真人, 土屋喬義, 竹内可尚, 高山直秀, 宮塚幸子: 麻疹患者における免疫抑制機序の解析. 第 40 回日本臨床ウイルス学会 (1999.05 大阪)
- 45) 高山直秀, 高山道子: PCR により早期に感染を確認できた新生児水痘の 1 例. 第 31 回日本小児感染症学会 (1999.10 福島)
- 46) 高野政志, 工藤一弥, 真野佳典, 山本謙二, 平松久和, 石井賢治, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の化学療法抵抗性に関する遺伝子変化. 第 11 回関越 UFT 研究会 (1999.1.9)
- 47) 高野政志, 工藤一弥, 真野佳典, 山本謙二, 平松久和, 石井賢治, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の化学療法抵抗性に関する遺伝子変化. 第 3 回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会 (1999.2.4-5 佐賀)
- 48) 高野政志, 工藤一弥, 真野佳典, 山本謙二, 平松久和, 石井賢治, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の化学療法抵抗性に関する遺伝子変化. 第 51 回日本産婦人科学会総会 (1999.4.10-13 東京)
- 49) 高野政志, 喜多恒和, 菊池義公, 工藤一弥, 後藤友子, 斉藤恵子, 永田一郎: 不明熱を呈した子宮体部原発胎児性横紋筋肉腫の一例. 第 97 回日本産婦人科学会 関東連合地方部会総会 (1999.6.27 東京)

- 50) 高野政志, 喜多恒和, 菊池義公, 豊泉長, 工藤一弥, 後藤友子, 斉藤恵子, 永田一郎: 不明熱を呈した子宮体部原発胎児性横紋筋肉腫の一例. 第28回 日本婦人科腫瘍学会 (1999.6.7.23-25 栃木)
- 51) 斉藤恵子, 喜多恒和, 後藤友子, 山本謙二, 高野政志, 平松久和, 菊池義公, 永田一郎, 相田真介, 堂本英治: 卵巣漿液性腺癌の化学療法中に軟骨肉腫様の鼠径リンパ節転移を認めた症例. 第28回 日本婦人科腫瘍学会 (1999.6.7.23-25 栃木)
- 52) 高野政志, 豊泉長, 古谷健一, 徳岡晋, 菊池義公, 永田一郎: 術後のQOLを考慮した子宮脱の根治的手術法. 第9回骨盤機能温存研究会 (1999.7.10-11 東京)
- 53) 後藤友子, 喜多恒和, 高野政志, 工藤一弥, 斉藤恵子, 菊池義公, 永田一郎: 再発・再燃卵巣癌に対するシスプラチンと塩酸イリノテカンの併用療法の有効性. 日本癌治療学会総会 (1999.10.12-14 岐阜)
- 54) 後藤友子, 高野政志, 古谷健一, 豊泉長, 菊池義公, 永田一郎: 尿閉を主訴とした子宮頸部悪性腺腫 (adenoma malignum) の一例. 第98回日本産婦人科学会 関東連合地方部会総会 (1999.10.24 つくば)
- 55) 後藤友子, 高野政志, 喜多恒和, 古谷健一, 菊池義公, 永田一郎: 当科における子宮頸部腺癌の化学療法, ワークショップ「子宮頸部腺癌に対する化学療法」. 第12回日本婦人科悪性腫瘍化学療法学会学術集会 (1999.11.20 経団連)
- 56) 後藤友子, 高野政志, 豊泉長, 古谷健一, 菊池義公, 緒方衝, 相田真介, 安斎幹雄, 永田一郎: 巨大嚢胞性腫瘤を形成し尿閉を主訴とした子宮頸部悪性腺腫の1例. 第38回日本臨床細胞学会秋季大会 (1999.11.27 名古屋)
- 57) 高野政志, 工藤一弥, 真野佳典, 山本謙二, 平松久和, 石井賢治, 喜多恒和, 菊池義公, 永田一郎: 卵巣癌の化学療法抵抗性に関する遺伝子変化. 第12回関越UFT研究会 (2000.1.15 大宮)
- 58) 塚原優己, 小池和範, 若林 晶, 岩田みさ子, 宇田川秀雄, 押尾好浩: dry swabを用いたPCR法によるクラミジア抗体検査—非妊婦婦人科検体における有用性について—. 第51回日本産婦人科学会 (1999. 4. 12 東京)
- 59) 塚原優己, 大木和子, 仙頭真夕, 若林 晶, 岩田みさ子, 宇田川秀雄, 押尾好浩, 岩井利恵, 高橋英則, 加藤千雅, 吉田多紀子: AMPLICOR C. trachomatis における阻害因子の検討—特に pH と乳酸に注目して—. 第12回日本性感染症学会 (1999. 12. 5 東京)
- 60) 塚原優己, 仙頭真夕, 若林 晶, 岩田みさ子, 宇田川秀雄, 押尾好浩: 子宮破裂を繰り返した1妊婦. 第13回分婏監視研究会 (1999. 6. 12 東京)
- 61) 塚原優己, 仙頭真夕, 若林 晶, 岩田みさ子, 宇田川秀雄, 押尾好浩: 羊水注入中の胎児徐脈. 第14回分婏監視研究会 (1999. 10. 30 東京)
- 62) 外川正生, 塩見正司: 長期生存し得た母子感染小児エイズの1例. 第13回近畿エイズ研究会 (1999.5.29 大阪)
- 63) 井上さつき, 外川正生, 塩見正司, 宮脇久子, 豊川三枝: テオフィリン投与中に発熱に伴った痙攣重積を生じ, 重症後遺症を残した2幼児症例. 第26回小児神経学会近畿地方会 (1999.10.16 大阪)
- 64) 荒井 洋, 鈴木典子, 外川正生, 小林健一郎: 急逝壊死性脳症後早期の機能障害. 第26回小児神経学会近畿地方会 (1999.10.16 大阪)
- 65) 外川正生, 塩見正司: 肺炎球菌髄膜炎27例の検討. 第30回日本小児感染症学会 (1999.10.29 福島)
- 66) 竹内ますみ, 足立陽子, 六鹿正文, 柴田金光, 内田雄治, 片平智行, 唐沢哲郎, 後藤濬二,

- 三輪 是, 戸谷良造: HIV 感染により発症したと考えられる子宮頸癌の 1 例. 第 69 回日本産科婦人科学会愛知県地方部会 (1999.7.3 名古屋)
- 67) 竹内ますみ, 戸谷良造, 三輪 是, 後藤濬二, 唐沢哲郎, 片平智行, 内田雄治, 柴田金光, 六鹿正文, 足立陽子: HIV 感染が関与したと考えられる子宮頸癌の 1 例. 第 54 回国立病院療養所総合医学会 (1999.11.11-12 大阪)
- 68) 早川 智, 石井真木, 佐藤和雄, 吉野直人, 本多三男: ヒト胎盤絨毛細胞ならびに絨毛癌細胞株における chemokine receptor の発現と機能. 第 29 回日本免疫学会総会 (1999.12.1-3 京都)
- 69) 石井真木, 早川 智, 千島史久, 鈴木 (唐崎) 美喜, 佐藤和雄, 麦島秀雄, 吉野直人, 本多三男: HIV の経胎盤感染機構と局所免疫の関与-生殖免疫学の立場から-. 日本生殖免疫学会シンポジウム (1999.12.17-18 東京)
- 70) 早川 智, 石井真木, 鈴木 (唐崎) 美喜, 千島史久, 佐藤和雄, 吉野直人, 本多三男: 子宮内膜, 脱落膜, 絨毛における IL-16 の産生. 日本生殖免疫学会シンポジウム 1999.12.17-18 東京)
- 71) 保田仁介: 各科領域におけるヘルペス感染症-STD としてのヘルペス感染症. 第 3 回京滋ヘルペス感染症研究会シンポジウム (1999.11.13 京都)
- 72) 保田仁介: 抗菌薬の使用理論とその実際-産婦人科感染症. 第 42 回日本感染症学会中日本地方会シンポジウム (1999.10.22 名古屋)
- 73) 保田仁介: 抗菌剤の適切な予防投与を考える-開腹術. 第 17 回日本産婦人科感染症研究会シンポジウム, (1999.7.18 京都)
- 74) 保田仁介: 話題の感染症の病態と診断-STD としてのクラミジア感染症の病態と診断. 第 42 回日本臨床病理学会近畿支部総会 (1999.5.22 京都)
- 75) 保田仁介, 福岡正晃, 田村尚也, 本庄英雄: 産褥母子における MRSA 検出状況とその薬剤感受性. 第 47 回日本化学療法学会総会 (1999.6.10 東京)
- 76) 保田仁介, 福岡正晃, 本庄英雄: 新生児室における MRSA 感染とその背景. 第 17 回日本産婦人科感染症研究会 (1999.7.18 京都)
- 77) 長谷川攻, 保田仁介, 澤田淳, 本庄英雄: HIV 感染妊婦より出生した児の取り扱いに関する研究. 第 378 回日本小児科学会京都地方会 (1999.9.5 京都)
- 78) 本多三男, 松尾和浩, 仲宗根正, 吉野直人, 海津雅彦, 大洲竹晃, 浜野隆一, 長縄聰, 滝沢万里, 川原守, 原敬志, 芳賀伸治, 山本三郎, 山崎修道: リコンビナント BCG のワクチン開発の試み, 第 69 回実験結核研究会 (99.4.14 宇都宮市)
- 79) 吉野直人: 母子感染でのリンパ球サブセットの解析, HIV 母子感染の先進基礎医学・セミオープンセミナー (1999.6.4 名古屋)
- 80) 仲宗根正: 母児間の HIV の遺伝子学的解析, HIV 母子感染の先進基礎医学・セミオープンセミナー (1999.6.4 名古屋)
- 81) 本多三男 Pajjit Warachit, Tawee Chotpitayasunondh, Pilaipan Puthavathana, 浜野隆一, 松尾和浩, 吉野直人, 仲宗根正: HIV 感染児における病態進行の加速を作用する因子の解析, HIV 母子感染の先進基礎医学・セミオープンセミナー (1999.6.4 名古屋)
- 82) 吉野直人, 網康至, 寺尾恵治, 田代文夫, 本多三男: 非ヒト霊長類モデルの免疫病態解析のための抗ヒト抗体交差反応性. 第 9 回日本サイトメトリー学会総会 (1999.6.28-30 札幌)
- 83) 滝沢万里, 吉野直人, 本多三男: モルモットにおける細胞表面抗原の解析. 第 9 回日本サイトメトリー学会総会 (1999.6.28-30 札幌)

- 84) 本多三男: HIV/AIDS のワクチン開発の現状. 兵庫医科大学学生・大学院講義 (1999.9.9 兵庫医科大学免疫学・医動物学教室)
- 85) 仲宗根正: 日本, タイ, およびロシアにおける HIV-1 の遺伝子学的特性. 第 505 回岩手医学会特別講演 (99.9.30 岩手医科大学)
- 86) 本多三男: HIV-1 感染の現状と予防治療法の開発の試み. 第 505 回岩手医学会特別講演 (99.9.30 岩手医科大学)
- 87) 本多三男, 松尾和浩, 大洲竹晃, 仲宗根正, 吉野直人, 長縄聰, 滝澤万里, 浜野隆一, 海津雅彦, 原敬志, 川原守, 堀端重男, 泉泰之: HIV ワクチン開発への応用を目的としたベクターの解析. 第 128 回日本獣医学会 (1999.10.13 熊本)
- 88) 海津雅彦, 北村勝彦, 朽久保修, 仲宗根正, 泉泰之, 大洲竹晃, 川原守, 滝澤万里, 長縄聰, 原敬志, 吉野直人, 本多三男: 国立感染症研究所における過去 12 年間の HIV 分離検体の検討. 日本公衆衛生学会 (1999.10.20-22 大分)
- 89) 本多三男: HIV 感染症の現状とその予防対策. バイオテクノロジー研究会 (1999.10.14 千葉・幕張)
- 90) 仲宗根正, 篠原克明, 網康至, 吉野直人, 海津雅彦, 高橋栄治, 永井美之, Yichen Lu, 本多三男: Subtype E-SHIV/サル感染モデル開発の試み. 第 47 回日本ウイルス学会 (1999.11.7-9 横浜)
- 91) 吉野直人, 網康至, 篠原克明, 高橋栄治, 海津雅彦, 滝澤万里, 須崎百合子, 柳富子, 菅又昌雄, 井原智美, 上野芳夫, 田代文夫, 本多三男: 病原性キメラウイルス (SHIV C2/1) 接種カニクイザルでの末梢血及び二次リンパ組織での CD4 陽性細胞減少及び apoptosis 誘導の比較. 第 47 回日本ウイルス学会 (1999.11.7-9 横浜)
- 92) 滝澤万里, 千葉丈, 浅野敏彦, 芳賀伸治, 吉野直人, 本多三男: 結核の動物モデルとしてのモルモットにおけるサイトメトリーを用いた解析手段の有用性. 第 29 回日本免疫学会総会 (1999.12/1-3 京都)
- 93) 仲宗根正, 山本博, 網康至, 塩先巧一, 篠原克明, 深田勝彦, 江田康幸, 城野洋一郎, 時吉幸男, 高橋栄治, 須崎百合子, 海津雅彦, 吉野直人, 本多三男: HIV-HBc キメラ粒子の赤毛サルを用いた有効性評価系の構築 (2). 第 13 回日本エイズ学会 (1999.12/2-4 東京北区)
- 94) 吉野直人, 網康至, 篠原克明, 仲宗根正, 泉泰之, 海津雅彦, 滝澤万里, 川原守, 須崎百合子, 高橋栄治, 柳富子, 田代文夫, 本多三男: 病原性キメラウイルス (SHIV C2/1) 接種カニクイザルでの初期生体応答. 第 13 回日本エイズ学会 (1999.12/2-4 東京 北区)
- 95) 吉野直人, 仲宗根正, 杉浦瓦, 原敬志, 滝澤万里, 泉泰之, 大洲竹晃, 川原守, 海津雅彦, 松田昌和, 鏡英恵, 岡野愛子, 井村総一, 太久保秀夫, 大場悟, 鈴木三郎, 須藤寛人, 高野政志, 高山直秀, 塚原優己, 外川正生, 早川智, 保田仁介, 喜多恒和, 戸谷良造, 田代文夫, 本多三男: 日本における母子感染一過去 11 年間の感染研での解析一. 第 13 回日本エイズ学会 (1999.12.2-4 東京 北区)
- 96) 松尾和浩, 大洲竹晃, 浜野隆一, 芳賀伸治, 山田毅, 山崎修道, 本多三男: 組み換え BCG エイズワクチンの開発: V3 エピトープ及び whole gag 蛋白質発現型 BCG ワクチンの構築と免疫誘導能の解析. 第 13 回日本エイズ学会 (1999.12.2-4 東京 北区)
- 97) 浜野隆一, 原敬志, 松尾和浩, 野内英樹, 本多三男: タイ国北部地域 (チェンライ県) における HIV-1 感染とその特徴. 第 13 回日本エイズ学会 (1999.12.2-4 東京 北区)
- 98) 原敬志, 仲宗根正, 吉野直人, 井村総一, 太久保秀夫, 大場悟, 鈴木三郎, 須藤寛人, 高